



千葉県環境研究センターニュース

発行日 平成18年7月15日

通巻1号

1 環境研究センターニュース発刊によせて センター長 小川 功

今世界の環境問題の注目は何かと言うと、おそらく地球環境問題ではないだろうか。地球環境問題の底辺は大きいのですが、世間的には目先の問題ばかりを議論して、基礎である部分の足元に目が行かないような気がします。そのため、当センターは、県民に向けて「環境問題の基礎から応用まで何でも聞いてください、分からない部分や議論のある部分と一緒に研究しましょう」という姿勢を強く出したいと思っています。その一環として広く県内の皆様に、このニュース形式での広報を考えました。皆さんの利用をお願いするとともに、皆さんの意見や質問も掲載し一緒に解決に向けて歩みたいと思っています。皆さんと一緒に考えることのできる県の環境研究センターにしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

2 環境研究センターについて

環境研究センターは大気、水質、地質や廃棄物に関わる環境問題を調査研究している千葉県の機関です。市原地区と、稲毛地区の2地区に分かれ、市原地区には本館(総務課、企画情報室、大気部)、及び新館(廃棄物化学物質部、環境学習施設)が、稲毛地区には水質研究棟(水質環境研究室)及び地質研究棟(地質環境研究室)があります。見学等のお申し込みは企画情報室までお願いします。(電話 0436-24-5309)



市原地区 本館
本館には、総務課、企画情報室、大気部が入っている。大気部では、大気汚染、悪臭、騒音振動、環境放射能などの調査研究を行っている。



市原地区 新館
新館には廃棄物・化学物質部と環境学習施設が入っている。廃棄物・化学物質部では、ダイオキシン等の化学物質に関すること及び廃棄物に関する調査研究を行っている。



稲毛地区 水質研究棟
水質研究棟には水質環境研究室が入っており、公共用水域(湖沼・河川・海域)の保全及び事業場排水・生活排水等の汚濁負荷削減技術について調査研究を行っている。



稲毛地区 地質研究棟
地質研究棟には地質環境研究室が入っており、持続的に地下水や天然ガスなどの利用を行っていくための研究、地質汚染の除去と防止、地震などの地質災害低減のための研究を中心に調査研究を行っている。

目次

1p	1 環境研究センターニュース発刊によせて	2 環境研究センターについて
2p	3 最近の環境問題 黄砂について	4 施設紹介 無響室について
3p	5 公開講座について	
4p	6 センターからのお知らせ	

3 最近の環境問題 黄砂について

黄砂は、中国北西部のタクラマカン砂漠やゴビ砂漠などの砂が風で舞い上がり、上空を吹く強い西風に乗ってほる日本まで飛んでくる現象で、3月から5月にかけて多く見られ、西日本で顕著に見られます。(図1参照 気象庁HPより引用)。平成18年4月24日から25日にかけて全国的な黄砂現象が観測され、関東でも5年ぶりに観測されました。千葉県内でも自動車に黄砂が降り積もる現象が多数認められました。黄砂は、以前は単なる「黄色砂ほり」と捉えられていましたが、最近の研究で地球温暖化をやや緩和する効果や、汚染物質の移送にも関係があると指摘されており、環境への影響が大きい現象として捉えられています。

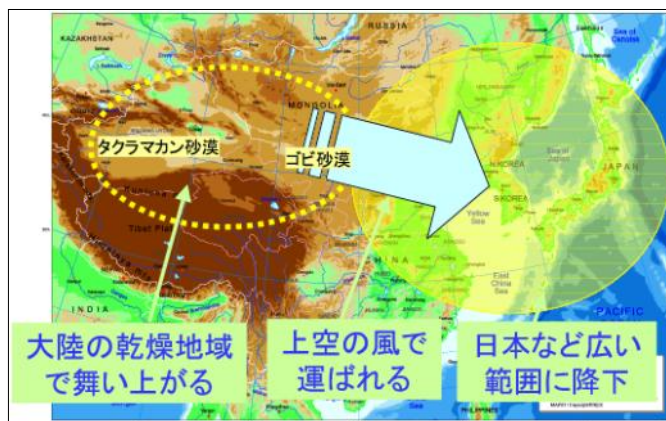


図1 黄砂の日本までの流れ(気象庁HPより引用)

図2は、千葉県が観測している浮遊粉じんの観測結果です。浮遊粉じんは黄砂だけでなく、大気中に浮かんでいる微粒子を集めて観測しているものですが、図2に示すように調査を行っている県下7地点で、平成18年4月は過去4年間の平均を大きく上回る浮遊粉じん濃度が観測され、黄砂の影響の大きさが分かります。なお、銚子市唐子の試料は顕微鏡観察の結果、種の特定はできませんでしたが、かなりの数の球形花粉が混入していることがわかりました。図3には顕微鏡でみた、平成18年4月と5月の浮遊粉じんを集めたる紙の写真です。通常は5月のように薄い灰色がかっているのですが、4月は黄砂の影響で全体が黄色になっていました。

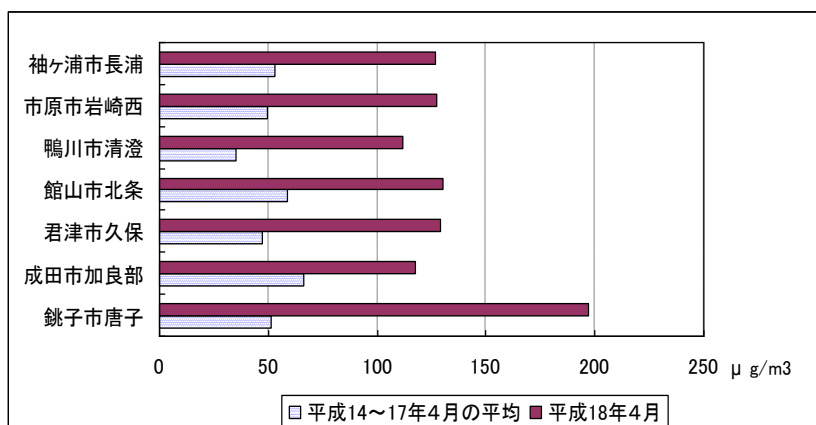


図2 浮遊粉じんの観測結果



図3 浮遊粉じんを集めたる紙の色 (ハイボリュウムサンプラー)

4 施設紹介 無響室

今回は、騒音振動研究棟にある無響室についてご紹介いたします。この無響室は外室と内室からなる二重構造の施設です。外室は約13m(W)×10m(L)×12m(H)の大きさで外部からの騒音を遮音するため300mm厚のコンクリート壁で作られており、その内壁は50mm厚のロックウールが張られています。内室は約10m(W)×7m(L)×8m(H)の大きさで、床面から87個、天井から56個、外壁から78個の防振ゴムで支えられた浮き構造で、内室と外室の間は空気層となっています。この室内では、音はほとんど反射をせず、外部からの騒音も非常に小さいため、騒音調査に欠かせない騒音測定機器のチェックを正しく行うことができます。また、騒音対策のための模型実験などにも有用な施設です。



5 公開講座について

この公開講座は、県民の方々とパートナーシップの確立を目指し、県民の方々が参加できる環境問題に関する講座を開催する事を考え、多くの方々が、様々な環境に関するテーマを受講できるように、月1回、土曜日に開催することにしております。昨年度実施した講座の中から7月に実施した「東京湾視察」および、2月に実施した「地球温暖化について」の2回について紹介します。



船上から知る東京湾 視察船「若潮」による東京湾視察

平成17年8月3日、10月7日

私たちは、日常の生活を通して、東京湾水域の自然環境に様々な影響を与えています。船上から、東京湾を見ることは、日頃の生活を見直し考える機会を与えてくれます。以下は参加された方々の感想です。

- ・東京湾は、私たちの生活にとって非常に大切な役割をしている所であるが、その場所が、今様々な環境の変化によって汚染されている事が理解できた。
- ・東京湾の事を知っているようで、全然知らなかった。特に赤潮、青潮について大変勉強になった。
- ・湾内を海から見て、埋立てが進んで人工の町や緑地がきれいに出来ている一方、陸からの影響が海水が海水の色でない。原因はいろいろあるが、あまりにも人の手により、変えられている。
- ・海は我々の生活の延長線上にあるということを講座を通じて実感した。
- ・夏の東京湾の海水の色が汚れているのに驚かされた。排水には今後十分注意していきたい。



地球温暖化シンポジウム「地球温暖化について」

平成18年2月26日（於：千葉市文化センター）

京都議定書が発効し、千葉県温暖化防止計画の改定が実施されたことを受け、千葉県と温暖化防止推進センターの共催によるシンポジウムを開催した。内容は講演が東京大学大学院工学系研究科教授 山地 憲治先生の「地球温暖化のメカニズムから見た防止対策」、県からの報告として「千葉県地球温暖化防止計画案の概要」、活動事例としてアースコン・マツドの土田茂道氏による「地域における地球温暖化防止活動の実際」が行われた。その後、意見交換を行った。

参加された方々の意見

- ・地球温暖化の現状と、今後の見通しについてよくわかりました。
- ・アースコン・マツドの存在は知っていたが、今日詳しい活動内容の一端を聞き感心した。特に高校生向けの活動は素晴らしいと思う。
- ・今、我々ができることはせめて家庭内における、電気・ガス等の節約、或いは自動車の使用を極力減らすことと思います。
- ・最も排出の大きい米国の、京都議定書からの脱退は世界に対し大変なことで、米国の勝手に憤りを感じる。



(今まで実施した公開講座の概要については、環境研究センターホームページでご覧になれます。アドレスは、www.pref.chiba.lg.jp/wit/です。)

6 センターからのお知らせ

(1) センター環境学習施設について

環境学習施設では環境問題をやさしく説明した「展示コーナー」、図書、ビデオ等を集めた「図書コーナー」などがあり、自由に閲覧できます。また、2階には定員100名の研修室があり、事前にご連絡いただければ、職員による環境問題の説明も行います。

見学等のお申し込みは企画情報室・環境学習施設(電話0436-24-5309)へお願いします。



展示:豊かな暮らしとゴミ問題



環境学習施設 図書コーナー



視聴覚コーナー

(2) ホームページパートナーシップコーナーについて

環境研究センターと県民の方々、環境活動団体の方々とのパートナーシップを進展するため、ホームページにパートナーシップコーナーを新設いたしました。内容は、今のところ団体紹介、イベント情報が中心ですが、センターへの質問・意見コーナーを通して意見交換の場にしたいと考えております。なお、団体紹介、イベント情報登録、質問・意見及び回答への書き込み等を行うには、登録が必要です。登録、書き込みには費用はかかりませんが、本ページに関する利用規約に従っていただきます。詳細はセンターホームページをご覧ください。団体紹介、イベント情報、環境に関する質問についても、登録申請後、センターで承認してから掲載となります。

(3) 講師派遣について

環境研究センターでは、環境問題の研修会などに、講師を派遣しております。企画情報室に、内容、日時、場所等をご連絡いただければ、センター職員の中から適任者を選び派遣を致します。なお、全てのご要望に応えられない場合もあることをあらかじめご承知おき下さい。

(4) 公開講座のお知らせ

①親子リサイクル工作教室

日時:8月26日(土)午後1時~17時 会場:環境研究センター 新館研修室 募集人員:親子で100名(先着順)

②環境教育ワークショップ

日時:9月30日(土)午前10時~16時 会場:環境研究センター水質研究棟 募集人員:30名(先着順)

申込先:①②ともに環境研究センター企画情報室

(電話 0436-24-5309、FAX 0436-23-3598、E-mail:kankyoken@pref.chiba.lg.jp)

編集後記

千葉県環境センターニュース第1号がようやく発行となりました。センターとなってから5年経過していますが、その間、年報、HP、公開講座などで、県民の方々に環境情報をお伝えして来ましたが、今回より、センターニュースによっても、センターの情報をお伝えできるようになりました。内容的にはまだまだ、不十分ですが、皆様のご意見などを参考に、充実したセンターニュースにしていきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

発行:千葉県環境研究センター企画情報室

電話 0436-21-6371 FAX. 0436-21-6810

学習施設 電話 0436-24-5309 FAX. 0436-23-3598

住所:290-0046 市原市岩崎西1-8-8

E-mail:kankyoken@pref.chiba.lg.jp

URL:www.pref.chiba.lg.jp/wit/